

(K字型脚での使用状態の例)

P-600AL-4 の特徴

- 前輪から吊り下げて並べることで、最も少ない面積で2台の自転車を収容。最大のスペース効率を誇ります。
- 支柱は軽量で錆びにくいアルミ製。
- 新設計の支柱断面構造により、ベース形状は壁に寄せやすいK字型あるいは安定感のあるX字型のいずれかをチョイス可能。
- 前輪フックや後輪受けは、新型アルミ製クランプにより簡単に位置変更して車体に合わせることが可能。
- 前輪フックはリムを傷つけないためのプロテクタを装備。二重並列構造により車体の捻りも抑えます。
- 最大荷重は40kgまで(片側の場合のみは20kgまで)

⚠ 注意していただきたいこと

- 通常の2輪自転車専用です。タンデムやリカンベント、ロングテール、長いサスペンションフォーク装備したDHバイクやフリーライドバイクでは、前輪フックを目一杯上げても後輪が床に接してしまう場合は不安定になるためお使いいただけません。
- 必ず平坦で水平な床の上に設置してください。また各脚のアジャスタは正しく調整し、ガタつきなく4ヶ所の接地点が同時に床に接するようにしてください。
- 片側にだけ自転車を掛ける際は偏荷重状態になるため転倒させないようにバランスに注意してください。
- クランプはアルミ製で軟らかいため、アタッチメントをクランプに止めるボルトはあまり強く締め込みすぎないでください。
- フックなどを確実に固定するため、クランプのボルトの締め込み順序は正しく行なってください。また雌ねじに対してボルトを斜めにねじ込んでしまわないように、必ずはじめの3回転ほどは指だけでねじ込むようにし、工具を使うのは最後にしてください。
- K字型脚を選択した場合は、転倒による事故を防止するため背面が壁になる場所に設置してください。またバランスを崩しての転倒防止のため、オプションの各種アタッチメントは支柱背面には装着しないでください。
- 後輪フックは自転車を固定するためのものではありません。重量バランスにより斜め後方に傾いてしまう自転車を手前に引っ張って直立させるためのものです。
- やむを得ず後輪から吊り下げる場合は、足元に張り出してくるハンドルバーなどにご注意ください。

お問い合わせ先

<販売元>

株式会社 深谷産業

〒462-0062 愛知県名古屋市中区新沼町150

Phone (052) 909-6201

Fax (052) 909-6212

Web www.fukaya-sangyo.co.jp

<製造元>

株式会社 箕浦 (営業部/カスタマーサービス)

〒503-2305 岐阜県安八郡神戸町神戸1197-1

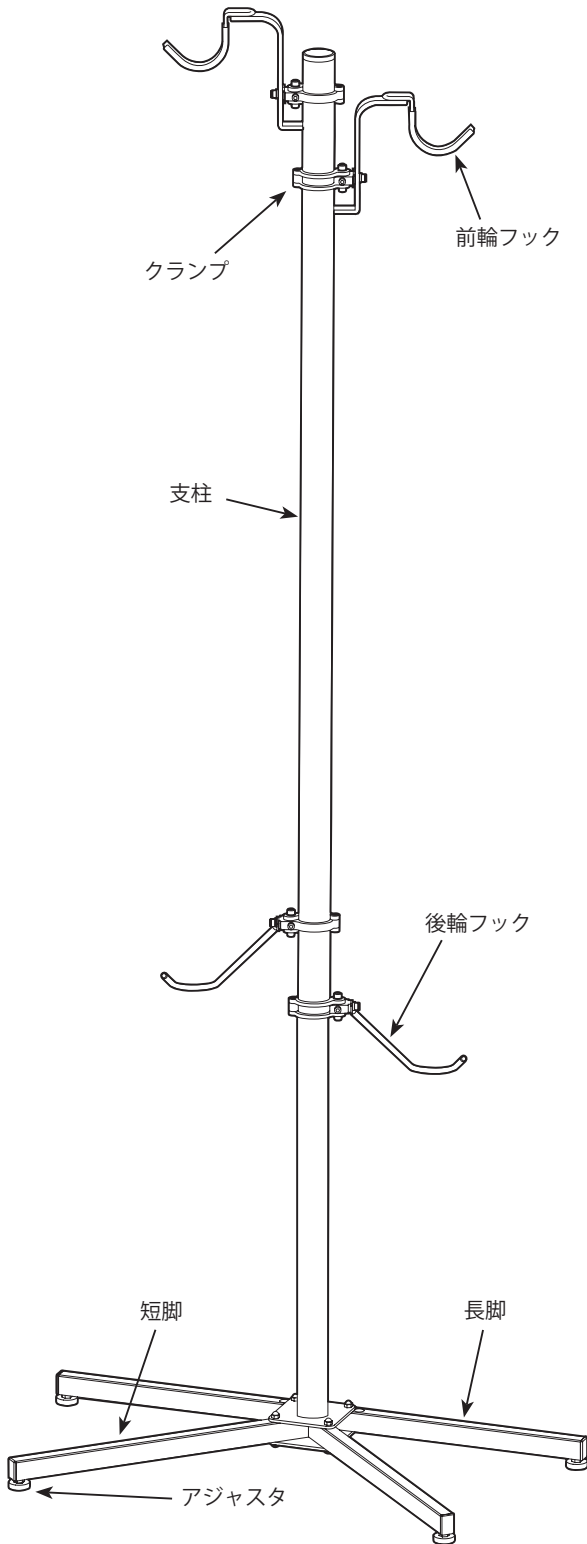
Phone (0584) 27-3131 (営業) / 27-3132 (サービス)

Fax (0584) 27-7505 (営業) / 27-4258 (サービス)

Email infodesk@minoura.jp (カスタマーサービス)Web www.minoura.jp

日本製

各部の名称



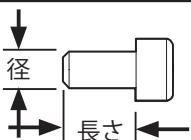
組み立てに必要な工具

M5 六角レンチ (添付)	1 本
プラスドライバ (添付しません)	1 本
13mm スパナ (添付しません)	1 本

(プラスドライバは一般的なの No. 2 よりもひとまわり太い No. 3 の方を推奨します)

ボルトサイズの読み方

(単位: mm)



例) $\frac{M 6 \times 30}{\text{径} \quad \text{長さ}}$

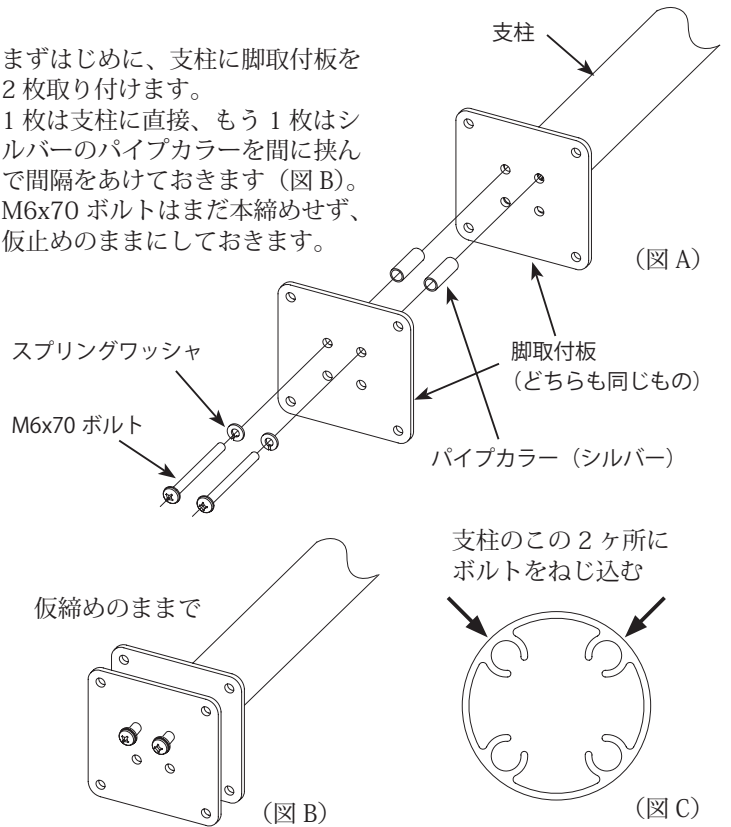
P-600 をK脚で組み立てる

脚をK字型で組み立てると、壁に寄せて省スペースに自転車を収納できるようになります。できるだけ設置面積を減らしたい場合に有効です。

1

まずはじめに、支柱に脚取付板を2枚取り付けます。

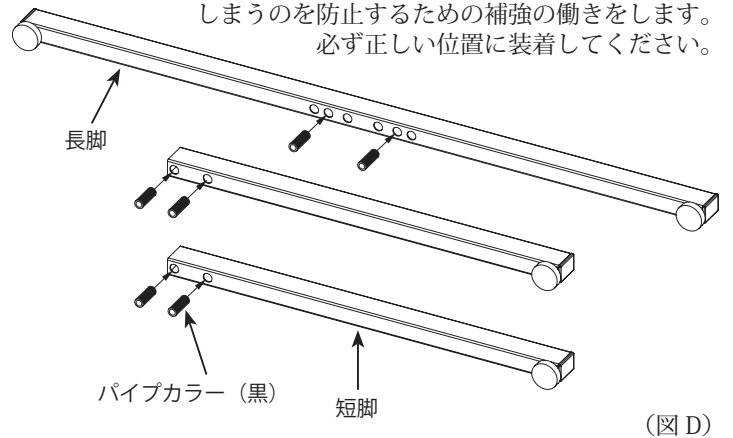
1枚は支柱に直接、もう1枚はシルバーのパイプカラーを間に挟んで間隔をあけておきます (図B)。M6x70 ボルトはまだ本締めせず、仮止めのままにしておきます。



2

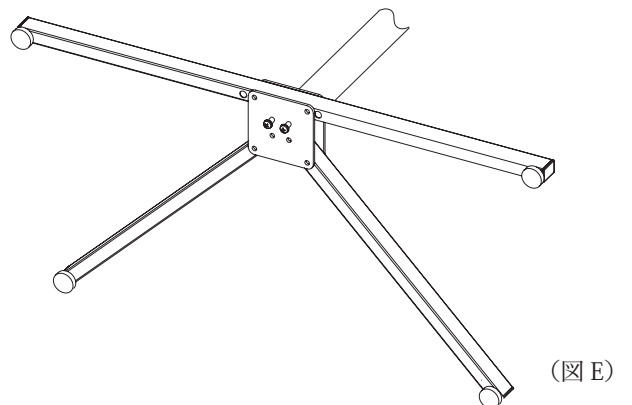
長脚・短脚それぞれの下記の位置の孔に黒色のパイプカラーを通します。パイプカラーは大きい方の孔から挿入します。

パイプカラーはボルトを本締めしたときパイプが潰れてしまうのを防止するための補強の働きをします。必ず正しい位置に装着してください。

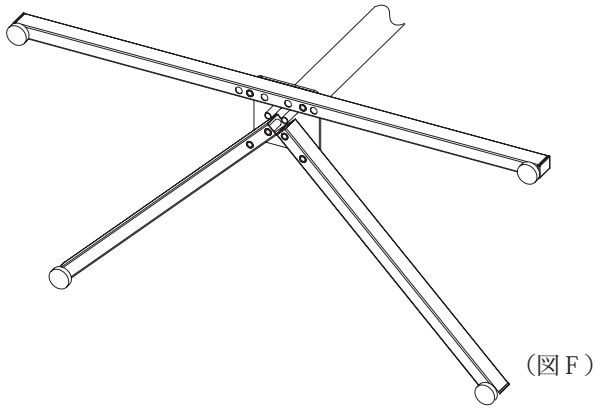


3

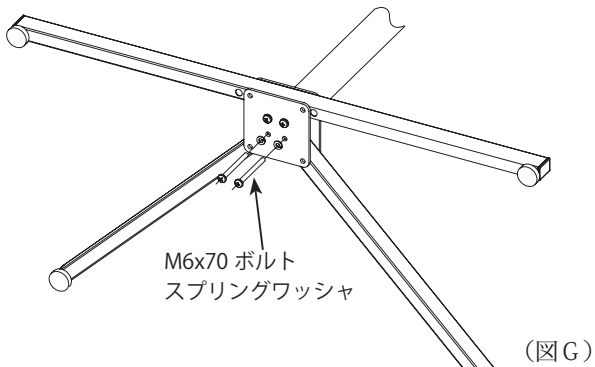
図Eのような形に脚を配置します。



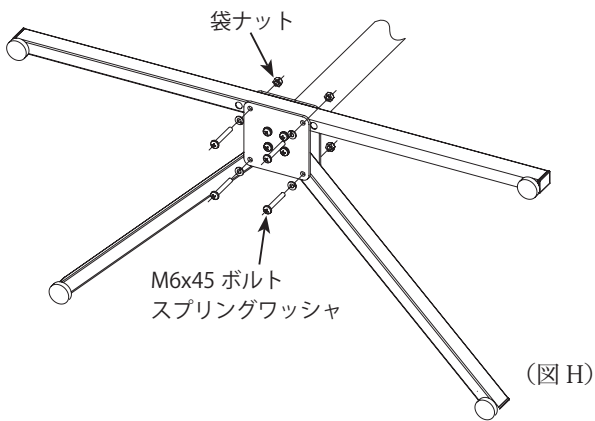
下側の脚取付板を外すと図Fのような配置になります。短脚から取り付けていきますので、長脚は後からでも構いません。



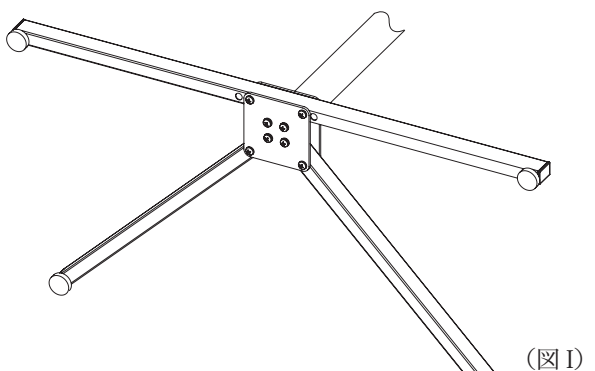
- 4** 短脚の先端の方の孔に長い方のボルト (M6x70) を通し、支柱にねじ込みます。



- 5** 脚取付板の四隅の孔には短い方のボルト (M6x45) を通して、短脚・長脚を取り付けていきます。M6x45 ボルトは袋ナットで止めます。

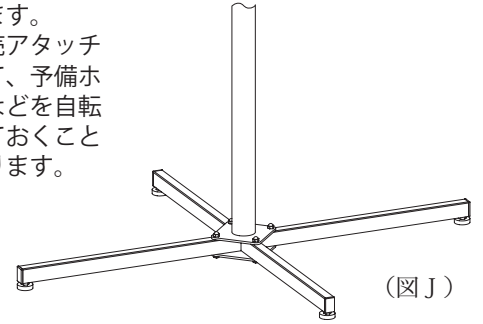


- 6** すべてのボルトを締め込んでおきます。支柱に直接ねじ込まれているボルトはあまり強く締め込みすぎるとネジ山が壊れてしまいます。適度に加減してください。

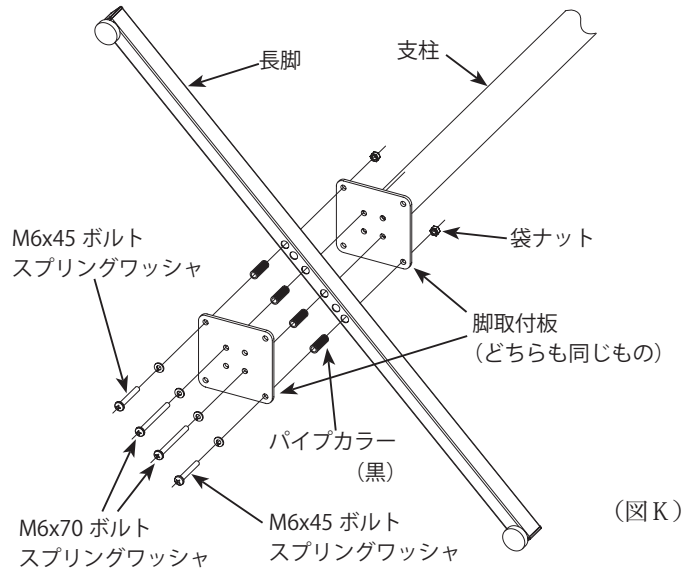


P-600 をX脚で組み立てる

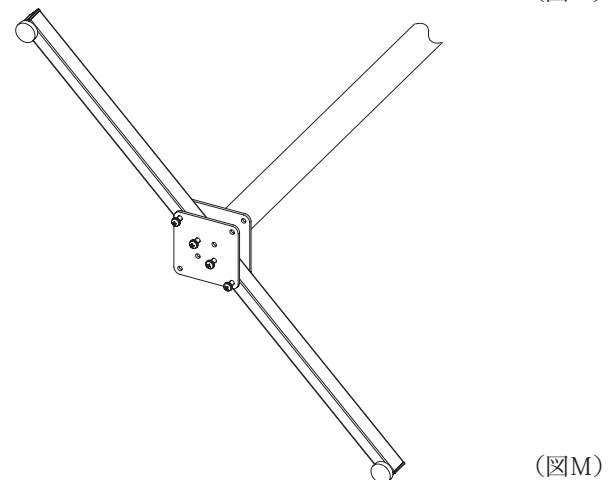
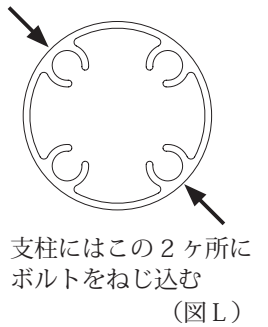
脚をX字型で組み立てると脚の踏ん張りが効くようになるため、部屋のどこにでも安定して設置することができます。また支柱背面に別売アタッチメントを取り付けて、予備ホイールやシューズなどを自転車と一緒に保管しておくことができるようになります。



- 1** まず長脚の下記の位置の孔に黒色のパイプカラー 4 本を通し、2 枚の脚取付板で挟んでから支柱に取り付けます。

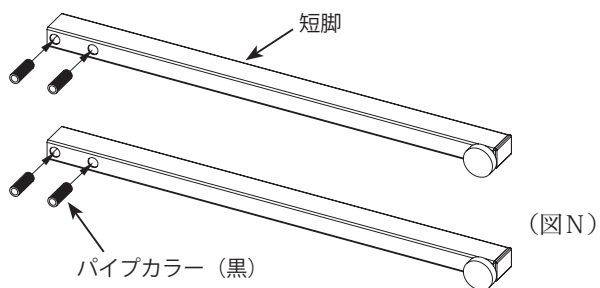


中央 2 本の支柱に直接ねじ込む方には長い方のボルト (M6x70) を使用します。外側の 2 本は短い方のボルト (M6x45) を使用し、袋ナットで取り付けます。いずれのボルトもまだ完全には締め付けず、仮止めのままにしておきます。

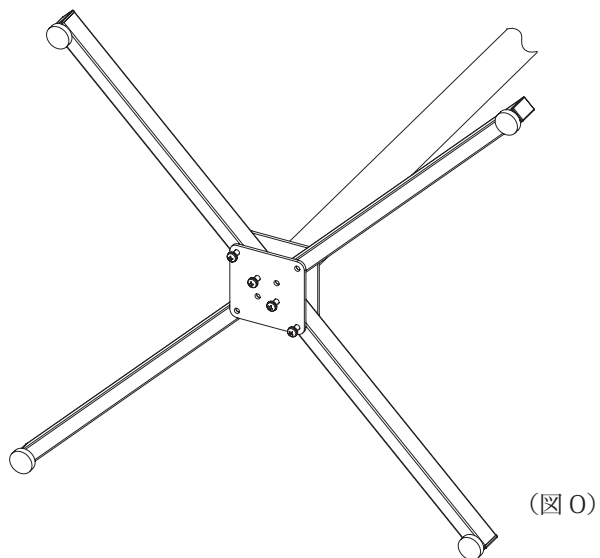


すべてのボルトを取り付け終わると、このような形になります。

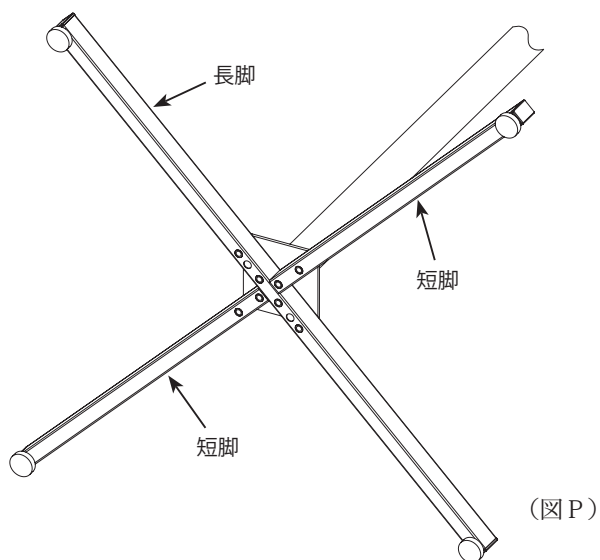
2 短脚は、それぞれ2ヶ所の孔に黒いパイプカラーを通しておきます。パイプカラーは大きい方の孔から挿入します。



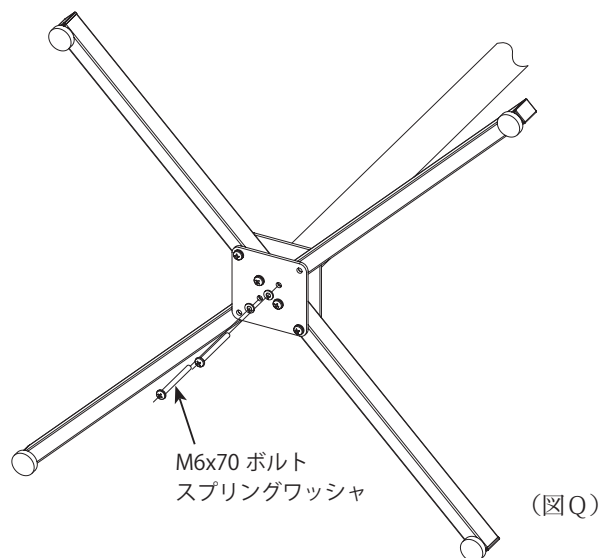
3 長脚に対してクロスになるように短脚を配置します。



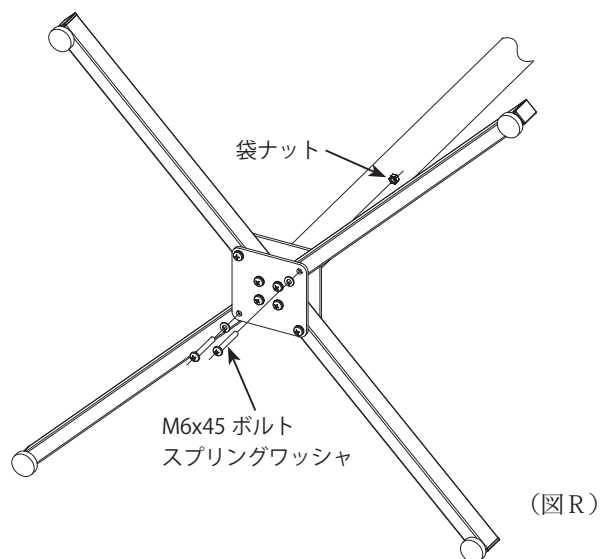
下側の脚取付板を外すと図Pのような配置となります。構造を理解しておいてください。



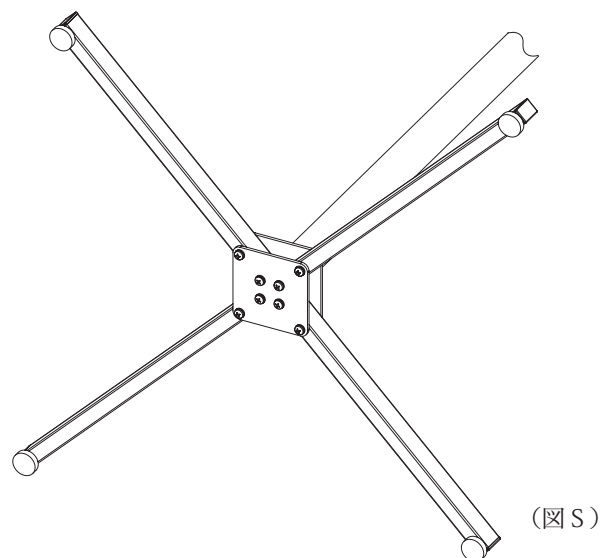
4 まず短脚の先端の方の孔に長い方のボルト (M6x70) を通し、支柱にねじ込みます。



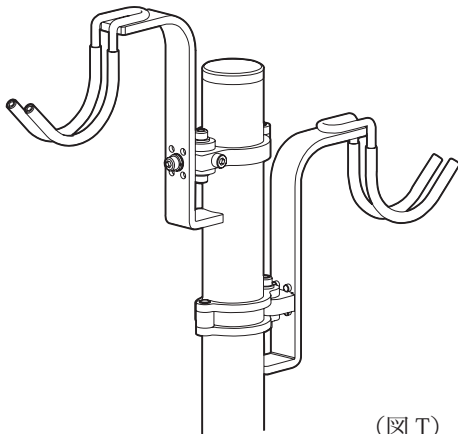
5 残った孔に短い方のボルト (M6x45) を通し、2枚の脚取付板で短脚を挟みこむようにして袋ナットで止めます。



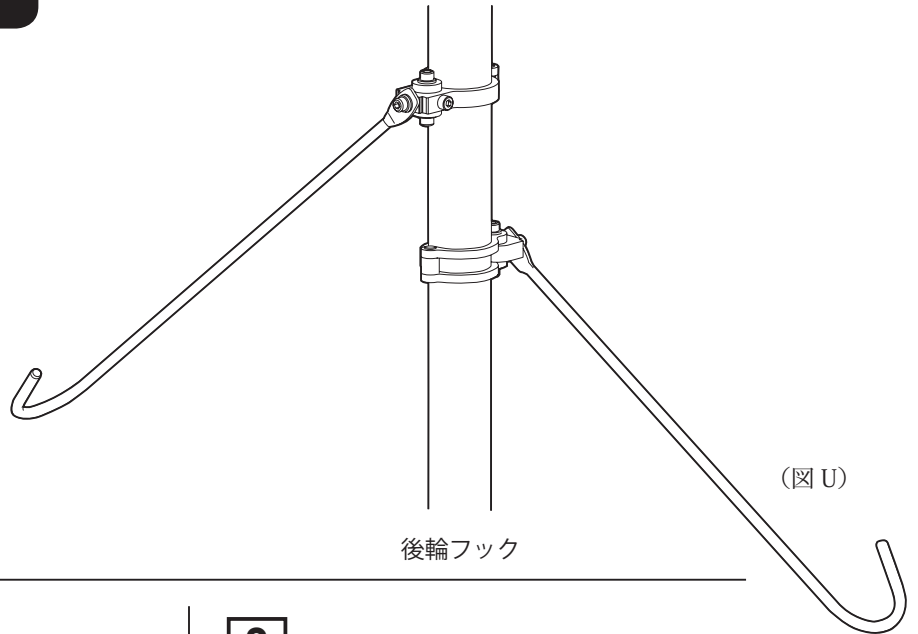
6 最後にすべてのボルトを締め込んでおきます。支柱に直接ねじ込まれているボルトはあまり強く締め込みすぎるとネジ山が壊れてしまいます。適度に加減してください。



前輪・後輪フックを取り付ける



前輪フック

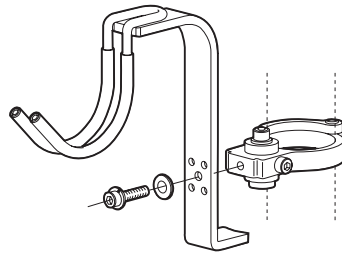


後輪フック

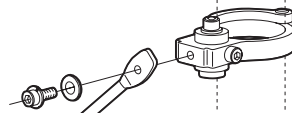
1

支柱上側のクランプに前輪フックを取り付けます。ボルト孔の周囲4ヶ所の突起がクランプに乗り上がりしないように注意してください。

ボルトは、まずはじめは少なくとも3回転は指でつまみながら回し、問題なくねじ込めることを確認してから初めて工具を使ってしっかりと締めます。



(図 V)



(図 W)

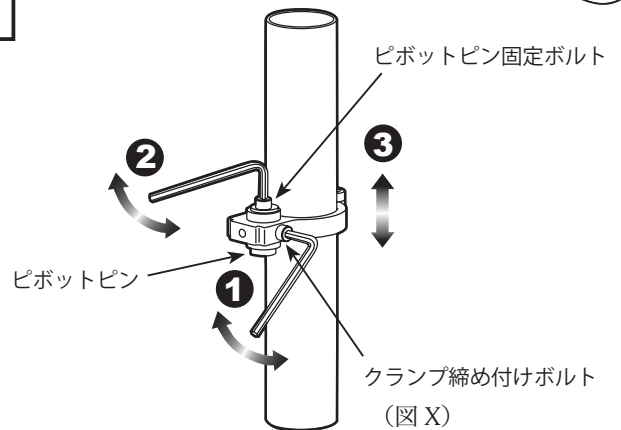
2

支柱下側のクランプに後輪フックを取り付けます。後輪フックは完全固定する必要はありませんので、フックが自重で垂れ下がってこない程度に締めただけで結構です。

ボルトは、まずはじめは少なくとも3回転は指でつまみながら回し、問題なくねじ込めることを確認してから初めて工具を使って締めます。

! ネジはその構造上どうしてもある浅い角度では斜めに入っていくと、1回転ほどで引っかかって止まります。これをネジ山の調子が悪くて止まってしまったのだと勘違いしていきなり工具を使ってボルトをねじ込もうとすると、斜めにねじ込まれたボルトがクランプ側の雌ネジを壊してしまいます。ネジは何であっても必ずはじめは手で回し、問題なくねじ込めることを確認してから初めて工具を使うようにしてください。斜めねじ込みのトラブルが非常に多いです。

3



フックを取り付けたクランプを緩めて好みの位置に移動させます。

フックは支柱のどこにでも固定可能ですが、脚をK字型にする場合は必ず支柱側面の真横になる部分に取り付けてください。(前輪フックは横に、後輪フックは前後に出るようにします)

クランプを移動させるには、①クランプ締め付けボルトと②ピボットピン固定ボルトの両方をM5六角レンチで緩めてから、③クランプを静かにスライドさせて行ないます。

! クランプ締め付けボルトを緩めただけではクランプは動かない場合があります。必ず両方とも緩めてください。

! クランプは支柱に直接接触していますので、十分に緩めないままスライドさせると支柱に傷を付けてしまう恐れがあります。多めに緩めてください。

! 脚をK字型にしている場合は、フックは必ず支柱の真横に取り付けてください。斜めに取り付けるとスタンド全体のバランスを損なう原因となります。

後輪フックは、後輪タイヤのいちばん奥のあたりをフックで引っ掛けた時に自転車直立するように、そのクランプ位置を上下に微調整してみてください。

クランプを移動させたあとは、①②両方のボルトともしっかりと締め付けておきます。

クランプの再装着のしかた

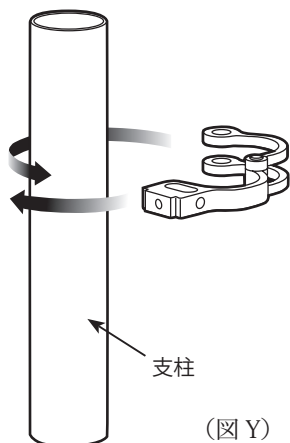
支柱にあらかじめ装着してあるクランプは基本的に外す必要はありませんが、オプションの追加などでいったんクランプを分解してから再装着することもあります。

クランプは以下の説明に従って正しく取り付けてください。しっかり固定できていないと、自転車をずり落ちさせたり部品の破損を招く場合があります。

1

まず分解したクランプを支柱に巻き付けます。

このときクランプの1本アーム側が向かって右側に、2本アーム側が向かって左側になるようにします。



(図 Y)

2

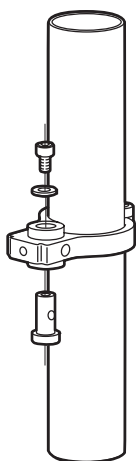
重ね合わせたクランプの下側から、3つの孔すべてを通るようにピボットピンを通し、上から平ワッシャを通したピボットピン固定ボルトを軽くねじ込みます。



ピボットピンを上から通してしまうと、六角レンチで固定ボルトを回せなくなってしまいます。



ピボットピン固定ボルトは今はまだ完全には締め込まないでください。次の作業が行えなくなってしまいます。



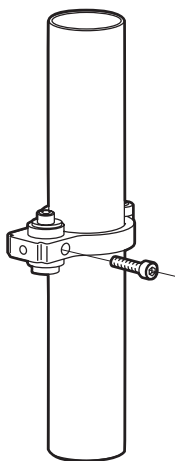
(図 Z)

3

ピボットピンを回転させ、ピンの側面にあるネジ孔をクランプ右側の孔に合わせます。

この状態でクランプ締め付けボルトをピボットピンにねじ込みます。

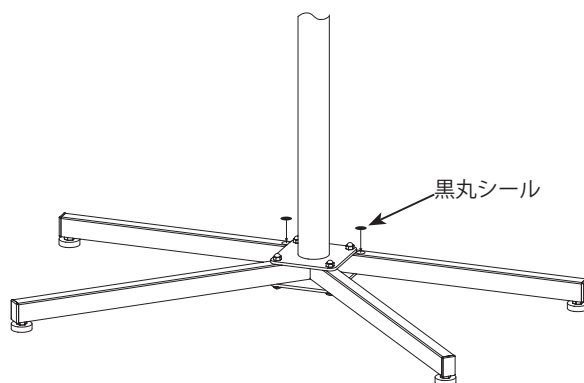
クランプを固定するには、まず最初に側面のクランプ固定ボルトをねじ込んでクランプを締め込み、続いて縦のピボットピン固定ボルトを締めこんでしっかりと固定させます。



(図 AA)

黒丸シールの使い方

K脚で組んだ際に脚取付板の脇から見える孔が気になる方は、付属の黒い丸シールで隠します。X脚の時には使いません。



(図 AB)